

# 全鉄連情報

平成21年 3月15日刊

[第71号]

目次  
P1～2 加盟団体報告  
P2 鉄鋼課連絡会報告  
P2 常任理事会報告  
P2～4 鉄流懇報告

P4 企業消息  
P4 会員入退会  
P5 業況アンケート結果

全国鉄鋼販売業連合会広報委員会主管

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館6F ☎03-3808-2350 FAX03-3808-2358

## 加盟団体報告

(平成21年 2月1日

～21年 2月28日)

飽くことなく諦めずの気概をもって

### △川口鉄鋼会 (鈴木康之会長)

2月7日(土)JR川口駅前の銀座アスター川口賓館で定時総会並びに新年懇親会を開催した。全鉄連・林喜裕会長、岡村幸一郎・川口市長、新藤義孝・衆議院議員奥ノ木信夫・埼玉県議会議員らが出席したほか、会員多数が参集した。冒頭、鈴木会長は「製造業の急激な落ち込みは我々中小零細な鋼材販売業者を取り巻く環境を厳しくさせている。ではあるが、牛歩の如くゆっくりと焦らず、また飽くことなく諦めずという気概をもって一步一步前進していくほかはない」と逆境に臨む姿勢を述べていた。林会長は「この1年、我々にとって試練の年となろう。それでも諦めず、まじめにコツコツと働いていれば必ずや努力が報われる」と述べ、さらに「日本経済はもともと内需振興型であるべきだ。たまたま輸出産業好調の恩恵に浴したわけだが、円高や海外市場の変調により一気に輸出が落ち込み国内景気を冷やした。その反省にたつて、政府には内需振興に繋がる景気対策を断固たる姿勢で早急に実行してもらいたい」と持論を披露し会場からも賛同を得ていた。

### 時局講演会に160名が参集

### △東京鉄鋼販売業連合会 (西村達夫会長)

2月5日(木)全国厚板シャリング工業組合東京支部関東コイルセンター工業会との共催による時局講演会を茅場町「鉄鋼会館」で開催した。講師にセブン銀行・安斎隆社長を招請。安斎社長は「世界経済はこの苦境からいかに脱却するか」との演題で、金融機関の最前線で陣頭指揮を執る立場から講演した。未曾有の金融不安に陥った経緯や米国のこれまでの金融政策の内情、そしてオバマ政権下での展望について解説した。「今後、米国における金融政策が失敗すると、世界的な金融不安はかなり長期に渡るものになるだろう」と懸念を表していた。なお、当日の聴講者は160名だった。

### 3団体共催で雇用調整助成金説明会

2月10日(火)にも5日の講演会と同様に、鉄鋼流通3団体共催による「雇用調整助成金・中小企業緊急雇用安定助成金」に関する説明会を茅場町「鉄鋼会館」で開催。各団体の会員会社から約70名が出席した。講師にはハローワーク飯田橋の石渡理之上席職業指導官を迎え、本制度の概要や申請手続きの留意点などについて詳細な説明が行なわれた。なお、浦安鉄鋼団地協同組合でも前日の9日(月)同様な説明が行なわれ、約90名が出席した。

## 熱戦を繰り広げた将棋大会

2月21日(土)茅場町「鉄鋼会館」で第8回将棋大会を実施。参加者20名が段・級別にA・B・Cの3クラスに分かれ1人3局ずつ対戦した。当日は女流棋士・多田佳子4段(日本女子プロ将棋協会)が審判長を務めた。午後1時から始まった対戦は午後6時半頃終了したが、AとCクラスは本選で決まらず優勝決定戦にもつれ込んだため、長丁場となった。クラス別入賞者は次の通り。[Aクラス]優勝=佐藤藤一(入船鋼材・4段)2位=大橋秀人(東洋シャリング工業・3段)3位=青柳秀明(関根床用鋼板・2段)[Bクラス]優勝=下河原英道(京江シャリング・2級)2位=福田正夫(松田商工)3位=山本弘治(関根床用鋼板)[Cクラス]優勝=鈴木善多(関根床用鋼板・4級)2位=中村雅輝(東邦ラス工業)3位=小林範行(東邦ラス工業)

## 当分続くと予測されるマイナス成長

### △愛知鉄鋼販売業連合会 (林喜裕会長)

2月13日(金)明鋼材本社会議室で「今後の金融情勢…オバマ新政権誕生後の世界経済とマーケット」と題する講演会を開催した。講師には東海東京調査センターの中井裕幸・常務取締役兼チーフストラテジストを招請タイムリーな企画で注目が集まり、会員会社の代表者など150名が出席した。中井氏はサブプライム・モーゲージの実態や今後の世界経済の展望などについて説明した。リーマン・ブラザーズ破綻に始まる世界的なリスクマネーの収縮が実体経済に多大な影響を及ぼし世界同時不況となった。中国経済は回復の兆しを見せているが、なんといっても米国の経済対策如何に掛かっている。やはり、ここ1～2年はマイナス成長が続くだろうなどの論旨を述べていた。

## 各社のベストな施策で現状克服を

### △新潟県鉄鋼販売業連合会 (今井幹文会長)

2月17日(火)新潟東映ホテルで定時総会と懇親会を開催した。今井会長は同会が毎月調査している業況アンケートの厳しい結果を踏まえ、経営環境改善に向けて「需要減で在庫調整の必要な時期だが、マーケット維持と各社のベストな施策で現状克服をお願いしたい」と挨拶した。全鉄連林会長は「失われた10年と言われた時期にも、相当の景気対策を行なった。回復までにはかなり時間が掛かったが、それが下支えになったので更なる悪化が防げた」と認識している」と景気対策の実行を要望していた。

## 関連会議報告

### 金失鋼課連絡会

2月24日(火)

会場 鉄鋼会館804号室

出席 松瀨・芳澤（経済省）林・木下（愛知）西村・山岸・佐藤・斉藤（東京）阪上（大阪）今井（北海道）川勝（東北）井上（神奈川）今井（新潟）南（石川）小野（北九州）塩尻（岡山・一日役員）

●全鉄連調べによる3地区12品種18サイズの平均市況は104,500円前月比-4,400円、前年同月比+6,200円。経済産業省からは、政府の「生活対策」に基づく「セーフティネット貸付」の拡充及び「『生活対策』中小企業金融緊急特別相談窓口」の設置について説明があった。詳細は鉄流懇本会議での松瀨氏コメントを参照。

## 常任理事会

●1月14日（水）に実施した合同新年賀詞交歓会の収支報告について事務局よりなされ、全鉄連の負担金は約8万とのことだった。

●現状のような大幅な需要減退局面においては、内需喚起がそこからの脱却の糸口になるとの観点から、全鉄連常任理事会メンバーにその具体策を聴取した。そこから9項目の具体案を提示したアピール文書を作成し、公表した。そして、この内容は3月3日付けの業界紙各紙に掲載されるとともに、事務局より政党、関係官庁などに郵送した。

●6月5日（金）開催予定の岐阜総会について、実施要領が提示され、その内容を討議した結果、ほぼ原案通りの実施することになった。なお、総会案内状は3月中旬頃には会員各社に郵送される見込みとなっている。

## 第407回鉄流懇概要

### 底割れ懸念が現実

●東鉄連からの概況報告（山岸・佐藤）  
△鉄筋…土木関連の新規物件は堅調に出ている。引き合いも微増傾向であったが、一部メーカーの動きで腰を折られた。需要家は先安と見て発注を小出しにしている。  
△平鋼…悪い状況が続いている。電話の鳴りを見ていると、更に悪化しているような気がする。在庫調整がうまくいっておらず、高い玉が若干残っている。  
△形鋼概況…1月部会調査では前月比で入庫2.4%減、出庫4%減、在庫8%減。出荷は前年比で2.5%減少している。  
△H形鋼…1月末ときわ会在庫は約2.6万トン、前月比4.3%減少。入庫が減ったので在庫減となった。個々の商売で安い値段が出て、少し時間が経つと相場になるということの繰り返しである。在庫店は赤字の垂れ流し状態である。  
△一般形鋼…在庫調整は出来ている。歯抜けもある。価格下落のスピードが遅くなっている。それらの要因で底であるとの認識であったが、一部メーカーの動きでその認識は消えかかっている。  
△C形鋼…1月分科会調査では、前月比入庫3%減、出庫横ばい、在庫5%減。相変わらずコイル価格の改訂をにらんでの弱含み商況が続いている。  
△広幅製品…かなりの落ち込みとなっている。直接販売が減少しているのは、物件減少を表している。  
△コラム…H形鋼との価格差が大きい。H形鋼市況が急速に下がっているため、コラム扱い業者はその値差に苦しんでいる。

△薄板概況…各コイルセンターは一時帰休などを実施して、雇用調整助成金の申請をしている。さらに休業日数が増える傾向にある。換金、損切り目的のコイルが出回っているわりには荷動きが悪い。在庫調整は思うように進んでいない。

△冷延…輸入材は増加していない。市中では投げ売りが横行している。先般、倒産情報が入り、そのユーザーの所へいったらもぬけの殻だった。夜逃げされたわけで、6~7人でやっていた会社だったが、このようなケースが後を絶たず、売りたいくても売れない場面でもある。

△表面処理…12月末薄板3品在庫は471万トンで、5ヶ月連続増加している。問屋・コイルセンター在庫が多い。需要が全くない。この安値がどこまで下がるのかわからない。このままではコイルセンターが窮地に追い込まれることは明白だ。

△厚板耳付き・切板母材…部会調査による1月販売量は前月比13.3%減、在庫量は8.3%増。前年比では販売5.5%減、在庫4.5%増となり、危機的な状況である。店売りが特に悪く、倉庫要員が朝から座ったままだったり午後には切断するものがなくなる、というような状況である。一方、橋梁、大型物件を手掛ける系列シヤは100%以上の稼働率である。

△中板・ホットコイル…中板も販売減、在庫増である。母材コイルが多い。車両、トラック、建機の落ち込みが大きい。販売が振るわないので在庫調整が思うようにいかない。

△厚板定尺…在庫が増え続けている。先が見えない。今のような状況だと成り行き任せとならざるを得ない。今ある在庫は、赤字の垂れ流しで仕方ないが売っていく。

△縞板…ここ数カ月、まったく荷が動かない。前年比3.5~4.0%の落ち込みである。大きな落ち込みであり、打つ手なしの状況が続いている。

△鋼管概況…1月販売は前年比2.0~4.0%減、前月比では1.0~1.5%減。3月あたりが量的落ち込みのピークとなるだろう。リードタイムが長いものや特殊なものは、価格を下げてでも売れない。在庫調整は9月頃まで掛かりそうだ。

△高炉品…シームレスは昨年まで絶好調だったが、第3四半期の契約が1月、2月まで残っているという状態である。小径角はタイトだったが、リロールメーカー向けの在庫は置場もないほどになっている。

△溶協品…2月に入り店売りはさらに悪化。通常、年度末でSTKは悪くないのだが、今年度は違った動きである。在庫を絞っているが、減っていかない。このような状況を打開するには政府主導による公共事業の推進である。バラマキと批判されない有益な公共事業を期待している。

### 大多数の企業が雇用調整助成金を利用

●OSAからの概況報告（阪上）  
1月販売は前月比7%減、前年比では3.1%減少している。品種別ではH形鋼、一般形鋼、平鋼は横ばい、鉄筋、薄板、厚板が1.0%前後前月比で落ち込んでいる。2月後半より一段と荷動き、引き合いが低調で1月を下回る動きとなっている。11月~1月にかけて底打ち傾向にあった条鋼は、2月に再度減少していくのではないかと。コイルセンター、シヤリング業者、特殊鋼扱い業者など紐付き加工の比率が高いところの落ち込みが甚だしい。1月末在庫は横ばいもしくは微減だった。2月にな

って販売が一段と落ち込み、あまり在庫は減らない。1月後半から下げ止まっていた条鋼は値下げ発表により大幅下落で、投げ売りも見られる。コイル関連製品もジリ安が止まらない。また、決算対策から紐付き余剰材を含め換金売りが目立つ。この不況下において個々の企業の方策としては正しいのかもしれないが、結果として市場価格破壊に繋がっている。雇用調整助成金については申請済、検討中が80%を占めるまでになっている。

## 現実化する経営危機

### ●愛鉄連からの概況報告(木下)

東海地区は製造業が盛んな地域であったが、この不況下、自動車、工作機械、建機などの需要は垂直下落となっている。流通としては手の施しようがない。元請けの生産調整により2次、3次下請の仕事が消えた。先行きの展望も見えない。経営破綻が続出し被害に遭っている。また、在庫簿価の高止まりに引替え市況は崩落となり、月次で赤字が出ており、経営危機が現実になっている。給与カット、人員削減の話も聞かれる。愛鉄連調査による1月販売量は5万トン台となり、前年比21%減と大きな落ち込みを見せている。未だ先が見えない状態である。

## 内需拡大で地域需要の掘り起こしを

### ●東北からの概況報告(川勝)

非常に良くない。大手企業の設備投資で東北地方に10万トンとも20万トンともいわれる需要があるとされていたが、景気の急速な落ち込みで消えてしまった。明るい話としては、仙台市内の地下鉄工事でそれに伴う需要が出てきたことと、青森県の原発関連需要である。いかんせんそれだけなので、このままではジリ貧なので内需拡大をお願いしたい。

## 極に達した需要不振

### ●神奈川からの概況報告(井上)

厚板は12月、1月で30~40%減少し、2月に入り極端に落ち込んだ。切板も高い母材から切断するため採算的に厳しくなっている。冷延、酸洗は価格が大幅に下がっているが、まったく買ってくれない。このような状況なので雇用調整助成金の申請している。鉄筋では建設会社の倒産が増加しているので、売り先によっては前金でお願いするケースもある。だが、一方では相当な明細を抱えているゼネコンもあるようだ。地元神奈川県の予算は緊縮傾向であり、政府の20~30兆円の景気対策予算が執行され仕事が出てくるのは年末であろう。

## 在庫調整進まず、売り先もなし

### ●新潟からの概況報告(今井)

この1週間で見ても悪くなっている。在庫は3月頃までには減っていくだろうと思っていたが、そうではなかった。地方は仲間売りがほとんどないので、需要家が落ち込むと売り先がないような状態になる。雇用調整助成金についてある団体で調べたら、28社中14社は既に受給済、13社が申請を準備しているとのことだった。ゼネコンからファブへの値引き要請があり、それが他の鋼材に波及しないか心配だ。

## 週休3日、4日が恒常化

### ●石川からの概況報告(南)

スーパーゼネコンでも仕事がない。良い話は北陸新幹線関連だが、建材を扱っていない所からすればまったく無関係な話ではある。特殊鋼も大きく落ち込んでいる。また、投げ売りも横行している。週休3日、4日が当たり前となっている。

## 雇用不安、需要不振、熾烈な売り込み合戦

### ●岡山からの概況報告(一日役員・塩尻)

本年1月の岡山県企業倒産(負債1000万円以上、内整理を含む)は5カ月連続で10件以上となり、19件発生している。負債総額は61億7000万円。業種別では建設業が23カ月連続発生し、1月は8社倒産しており、土木を含め過半数を占めている。県下の雇用情勢は有効求人倍率が0.95倍(12月)と1倍を割り込んだのは5年3カ月ぶりのことになるようだ。特に製造業の新規求人は、前年同月比39.4%減となり地方での雇用環境は悪化している。県内大手企業はそれなりに仕事をもっているが、単価の安さや支給材で賄われているため、地元にはあまり恩恵がないようだ。自動車関連の下請では週休3日、4日となっている業者がある一方で3月もフル稼働している分野もある。また、内示ではあるが仕事の増量があったところもある。ほんの一部かもしれないが明るい情報だと思う。県内建設関連はまことに暇である。Hグレードはなんとか県外の仕事を探して繋いでいるようだがMグレードはその日暮らしが多いようだ。仕事がまとまれば安い単価を提示され、鉄骨価格は弱含みである。岡山の狭い市場を目指して、東から西から南から安値の売り込みが殺到している。この前、取引銀行で聞いた話だが「緊急保証制度により市役所などで不況業種の認定を受けるとスムーズに融資してくれるようになっている。それで何年か掛けて返済してもらおうわけだが、早く倒産して保障協会から返済してもらおうほうが、銀行にとっては楽で良いのだが」とのことだった。考え方によれば、それもそうだと思う。一時しのぎの延命金であるならば事態の好転には寄与しないのかもしれない。

## 内需喚起を要望

### ●林会長(総括)

各地区から物が売れない、動かないという報告がなされている。資料を見ても企業収益DIが-93、品種別需給DIは-70と記録的に悪くなっている。経済産業省でも融資制度などで対応していただいているが歯止めが掛からない。ここまで悪化してくると仕事がない、売り先がない、という会員の声が高まっているように思う。製造業は無論のこと、建設業でも仕事が乏しい。客先の与信不安を言う前にまず自社の存続が念頭に置かれている。ここに至り、経団連は景気対策25兆円規模の追加経済対策を政府に要望した。全鉄連としても内需喚起が緊急仮題という認識のもと意見のとりまとめをしておりその結果を各方面にアピールしたいと考えている。金融不安が実体経済に影響を及ぼし、GDPは2008年10~12月で年率12.7%減少。1~3月は更にマイナス幅が拡がると思われる。国が予算を付けても地方自治体に財政出動の余裕がないという実態の中で、それでも知恵を出してなんとか対応していかねばならない。企業の経営危機、失業の更なる増加にならぬよう、皆で力を合わせて、このかつてない需要の冷込みを乗り越えていくべきときが来ている。

\*この後、商社・メーカーから発言があった。なお、発

言内容については別紙資料3-1、3-2を参照。

## 政府経済対策諸制度の活用を

### ●経済産業省（松淵）

製造業、建築を含め、需要は引き続き厳しい状況にある。需要減と先安感、受注先の与信不安もあり先行きは相変わらず不透明である。先程の報告で一部の地域では受注量に多少回復の兆しが見られるとの話があったが、それが実需なのかどうか、設備投資の取りやめとか延期が相次ぐなか慎重な見方を取らざるを得ない。受注量の低迷はまだ続くものと思われる。引き続き、慎重な実需見合いの対応が必要である。中小企業庁と金融庁が合同で昨年10月から本年2月にかけて全国153カ所で、中小企業約千社と金融問題について直接意見交換をしている。中小企業庁ではこうした声を踏まえて、2月17日に年度末の資金繰り対策を発表した。一つ目は30兆円規模に拡大した保証・貸付枠を更に利用しやすくするという観点から緊急保証制度に係わる特定指定業種の見直しを行なった。加えて1月30日からセーフティネット貸付の拡大も行なっており、生活対策中小企業金融緊急特別相談窓口を設置するとともに、貸付利率の引下げ、貸付限度額の拡充を実施している。更に昨年10月に民営化された、危機対応のための融資を実施する法定指定金融機関である商工中金においても、危機対応業務として、2次補正予算の成立に伴い、貸付枠を1兆円に拡大して、同様の特別貸付の本格実施を開始している。二つ目は、業況の悪化を補完するという観点から、企業の再建、新事業展開に取り組む中小・小規模企業の支援制度いわゆる劣後ローン制度の拡充というもので「小規模企業向け制度」を新設している。20年度当初から「中小企業向け劣後ローン制度」が開始され、日本政策金融公庫で取り扱っているが、全体の貸付枠を50億円から330億円に規模を拡大している。本制度は、融資対象者の条件が合致する場合には、企業の再建、新事業展開に取り組もうと考える中小・小規模企業者にとってメリットがあると思われる。更に既存の制度で在庫、売掛債権などを担保とする流動資産担保融資保証制度の一層の活用についての呼び掛けも行なっている。この制度では売上が落ち込み、資金繰りが厳しくなるなかで、在庫や売掛債権を担保として金融機関が融資を行う際、信用保証協会が債務保証を行う制度である。このような制度があるということで、説明させていただいて。

## 需要に直接働きかける景気対策を

### ●小野会長

非常に厳しい話が相変わらず続いており、出口が見えない。在庫増の問題が取り上げられているが、個人的には現在の問題は需要不足であると思う。米国コイルセンターの在庫の例で申し上げると、絶対量は記録的低水準歴史的な低水準在庫であるにも関わらず在庫率は4カ月に近い状況と聞く。実需は逃げ水のように去り、在庫調整が全く追いつかない。どうやって需要を喚起するか世界各国が大型の景気対策、経済対策を需要に直接働きかけるような対策を打っている。日本政府においてもすでに様々な施策を打っているが、需要に直接働きかけるような景気対策を是非お願いしたいと思っている。我々が今成すべきことは、基本動作をきちんと行うことは当然であるが、先行きは不確実であり、今後も厳しい状況が続くという前提で物事を考えていくことであると思う

最後に、現在日本鉄鋼連盟傘下の各種委員会について、効率化などの観点から見直しが行われている。この鉄流態についても、同様に在り方、運営方法などの見直しを全鉄連と一緒に検討していることを報告するとともにご理解をお願いしたい。

会員企業消息（平成20年12月1日～21年1月31日）

### 〔所在地・代表者変更など〕

○(株)鉄鋼社（東鉄連・本所）～代表者に田嶋直氏が就任した。

会員入退会（平成20年12月1日～21年1月31日）

### 〔入会〕

\*該当事項なし

### 〔退会〕

○(株)三共運輸（東鉄連・京橋）

○(株)佐野商店（東鉄連・神田）

○川端鋼業(株)・中尾シャーリング（東鉄連・江戸川）

（了）

2月23日締切で、当会役員167名に対し、このアンケートを行ったところ、99名(59.3%)から回答があり、その結果(太枠内)が下記の通りまとまりましたのでご報告いたします。

\*DI算出方法=(A×2+B×1-D×1-E×2)÷回答数×100

数量、金額とも過去最低

【問1】貴社の1月(先月)の総売上金は、前年同月比々如何でしたか。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	売上 前年比	A	B	C	D	E	計	1月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		10%以上増	5%以上増	ほぼ横ばい	5%以上減	10%以上減		DI
▲22	36	34	34	▲45	▲53	▲39	▲95	▲82	▲96	▲122	▲135	数量	2(2%)	0(0%)	7(7%)	11(11%)	77(80%)	97	▲166
4	4	110	110	59	+81	+95	+54	+72	+43	▲18	▲51	金額	6(6%)	4(4%)	12(13%)	12(13%)	63(64%)	97	▲126

激減状態続く

【問2】貴社営業窓口から見て2月(今月)の販売量は前月比如何ですか。

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	販売量 前月比	A	B	C	D	E	計	1月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		かなり増加	やや増	ほぼ横ばい	やや減少	かなり減少		DI
▲59	▲34	▲87	▲89	▲75	▲64	▲84	▲52	▲74	▲96	▲100	▲104	公共建設向		7	18	19	31	75	▲99
▲47	▲18	▲67	▲82	▲60	▲54	▲79	▲63	▲84	▲112	▲123	▲136	民間建設向		3	17	22	40	82	▲121
2	2	▲24	▲40	▲28	▲33	▲51	▲22	▲79	▲110	▲153	▲155	自動車向			9	10	33	52	▲146
▲8	1	▲41	▲59	▲48	▲41	▲67	▲36	▲63	▲97	▲124	▲130	その他需要家向		2	16	26	41	85	▲125
1	3	▲53	▲69	▲47	▲52	▲80	▲64	▲78	▲106	▲124	▲129	仲間取引		3	14	21	40	78	▲126
▲25	▲11	▲58	▲71	▲54	▲50	▲74	▲50	▲75	▲104	▲123	▲129	計		15	74	98	185	372	▲122

収益悪化止まらず、7割が赤字

【問3】貴社の1月(先月)の企業収益状況は、如何ですか。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	企業 収益状況	A	B	C	D	E	計	1月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		黒字	若干黒字	収支トントン	若干赤字	赤字		DI
38	116	142	143	128	133	137	106	106	83	19	▲36		5(5%)	11(11%)	14(14%)	25(25%)	44(45%)	99	▲93

春先以降の需要も全く見えず

【問4】貴社における向う3ヶ月間の需要動向についての予測は如何ですか

2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	需要動向 予測	A	B	C	D	E	計	2月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		増加	微増	ほぼ横ばい	微減	減少		DI
18	2	▲32	▲30	▲28	▲26	▲34	▲4	▲98	▲124	▲151	▲131		5(5%)	11(11%)	14(14%)	25(25%)	44(45%)	99	▲93

進まず過剰感蔓延

【問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	需要状況 感角	A	B	C	D	E	計	1月
DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI		非常に不足	やや不足感	ほぼ需給均衡	やや過剰気味	非常に過剰		DI
2	13	41	40	44	17	+15	4	▲8	▲35	▲54	▲72	鉄筋用丸鋼		1	23	22		46	▲46
▲6	10	19	15	26	11	▲2	▲4	▲7	▲20	▲30	▲50	構造用丸鋼			30	14	5	49	▲49
▲9	11	31	43	22	15	+9	▲4	▲14	▲40	▲43	▲51	平角鋼		1	26	25	1	53	▲49
▲3	37	86	97	93	56	+32	7	▲13	▲55	▲31	▲75	H形鋼		2	22	24	4	52	▲58
▲27	▲4	59	93	95	94	+80	58	+44	0	▲31	▲57	コラム		1	17	17	4	39	▲62
▲15	12	45	40	30	21	+8	▲11	▲20	▲51	▲45	▲63	小形山形鋼		1	28	25	4	58	▲55
▲13	13	49	48	34	16	+11	▲7	▲24	▲53	▲48	▲60	中形山形鋼		2	30	21	5	58	▲50
▲10	20	79	78	61	48	+31	12	▲4	▲40	▲48	▲59	溝形鋼		1	28	21	7	57	▲60
▲25	▲15	8	12	2	▲3	▲15	▲20	▲29	▲40	▲47	▲66	軽量形鋼C形			21	24	4	49	▲65
▲12	▲14	13	16	5	2	+3	▲3	▲14	▲22	▲34	▲58	軽量形鋼広幅			16	15	2	33	▲58
12	45	91	69	73	46	+32	2	▲2	▲43	▲47	▲83	冷延薄板			14	28	8	50	▲88
12	48	87	75	52	32	+19	▲3	▲17	▲48	▲67	▲83	熱延薄板			17	34	10	61	▲89
+0	36	82	67	57	34	+12	▲8	▲18	▲39	▲58	▲77	表面処理鋼板		1	15	29	6	51	▲78
39	100	135	98	65	34	+20	▲14	▲29	▲71	▲82	▲89	酸洗鋼板		1	12	25	14	52	▲100
11	69	92	78	48	44	+17	▲4	▲10	▲52	▲63	▲86	中板			21	32	10	63	▲83
63	90	105	122	102	88	+86	76	+66	+38	▲2	▲35	厚板		1	36	19	3	59	▲41
83	100	118	120	113	102	+110	100	+92	+70	+31	+11	極厚板		5	27	5	1	38	▲5
▲4	5	42	49	20	25	+9	7	+4	▲26	▲33	▲28	縞板		1	32	18	1	52	▲37
▲17	▲9	22	26	13	10	+9	0	▲6	▲30	▲37	▲36	中径角		1	27	23	2	53	▲49
▲14	▲7	24	28	13	12	+13	0	▲4	▲21	▲25	▲38	ガス管・黒		1	37	12	3	53	▲32
▲17	▲6	23	25	15	2	+4	▲6	▲5	▲20	▲25	▲41	構造用鋼管			32	13	2	47	▲36
2	26	61	60	47	34	+24	7	▲2	▲30	▲40	▲58	計		20	511	446	96	1073	▲58

## 鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について (2009年2月)

発表項目	発表者	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
1. 需給動向 (景況感)	メタルロン	住友商事	阪和興業	三井物産	
2. 需要産業動向	造船及びプラント定修以外の需要は引続き低迷。建設市場向けは前年比 10%~20%減少。特に自動車向けは 50%~60%の減少となっており、扱い流通及び加工メーカーは固定費の削減を急速に進めている。	12月月の自動車生産台数は、前年比 25.2%減の 73万台と先月を上回り過去最大の下落率を記録した。輸出も 33.6%減の 42万台だった。1月の国内新車販売台数は、27.9%減の 17万台となり 6ヶ月連続の減少となった。12月の新設住宅着工戸数は、前年比 5.8%減の 8.2万戸と 6ヶ月ぶりの減少となった。	12月月の建設機械出荷金額は、1,551億円で前年同月比 32.3%の減少。内需は 31.5%減、外需は 32.6%減。	好調だった、建機・自動車を含め、全般低調。	
3. 輸出入動向	08年12月期の鋼管貿易は、輸入低迷、輸出は年間アベレージレベルとなっている。	12月の薄板3品入着量は、前月比▲1.7%の 22万トンであった。熱延は▲5%、冷延は横置い、亜鉛メッキは+12%。 12月末の輸入鋼材岸壁在庫は、前月比+0.5万トンの 24.6万トンと荷動きの悪さを浮き彫りにしている。	12月輸入通関額は、11,995トンで、前月比 4,061トンの減少。ロシア材 4,085トン通関。輸出は 350千トンで前月比 40%増加。	H形鋼の土木サイズを中心にスポット対応。旧正月前、韓国メーカーが US\$490/MT CFR シンガポールにて数千トン契約締結。この価格がワークエットの指標となっていたが、その後、トルコメーカー等が US\$450CFR シンガポール迄オファーを下げてきた。係るワークエットの下落傾向を受け、各国 BUYER は様子見。	
4. 海外市場動向	油井管・ラインパイプの輸出マーケットに於いて、足下の商談は減速感が増している。	世界経済情勢は月を追って悪化の様相を深めている。既に日米欧が揃って景気後退局面入りしているが、雇用情勢の急激な悪化、デフレ懸念の台頭から不況の長期化は避けられない見通し。自動車販売が各国で激減、家電、機械生産の減速も著しく、鉄鋼各社は減産体制を強化している。	中国市況は旧正月を挟んで上昇傾向にあったが、足下小幅反落。台湾 CSC は 20 国内価格を、約 14%値下げ発表。	米国の Buy American 条項を含む景気対策法以外に、ロシア、インドが輸入関税を引き上げており、保護主義の台頭が懸念される。	
5. トピックス				ピレット・鉄筋 輸出入状況 中国関連情報 等	

発表者	電炉 合同製鐵	高炉 日新製鐵
1. 需給動向 (景況感)	<p>①08.12月の全国小棒(鉄筋用棒鋼)生産量が556千トン(前年同月比▲35%)と年率700万トンを割る水準にまで減少している。09.1月以降もマンション需要が更に低迷していることから更に減産が進むとみられる。</p> <p>②デネコンは足下のスクラップ価格から買い控えているが、メーカー各社も需要見合いの生産に徹していることから在庫水準は減少している。</p> <p>③契約量については前月に比べ若干回復するものの、依然低水準の契約量となっている。</p>	<p>内閣府が発表した10～12月期の実質GDP成長率(速報)は、輸出の急減を背景に前期比3.3%減(同年率12.7%減)となり、第一次石油ショック時の1974年1～3月期(前期比3.4%減・年率13.1%減)以来最大の落ち込みとなった。</p> <p>海外も景気後退が鮮明となっており、足元の内外経済は急速に落ち込んでいる。</p>
2. 需要産業動向	<p>①08.12月の新設住宅着工面積(RC造)は142万㎡(前年同月比+1%)</p> <p>②08.12月のマンション着工戸数は11,162戸(前年同月比+5%)と低水準が続いている。</p> <p>③08.10～12月のマンション契約率は首都圏63%、近畿圏60%と70%割れの低水準が継続している。</p>	<p>建設・自動車・産機・電機のいずれの分野も、金融収縮に伴う需要減により、12月の活動水準はほとんどの項目で前年同月を大きく下回り、これに在庫調整が加わって鋼材需要は急減している。12月の鋼材受注量は内需向けが前年同月比で32.6%減と、3ヵ月連続での大幅なマイナスとなった。</p>
3. 輸出入動向	<p>①08.12月のピレットの輸出量は56,850トン(前年同月比▲52%)で内訳は韓国19千トン、ベトナム18千トン、中国11千トン、インドネシア4千トン、インド3千トン、他となっている。</p> <p>②08.12月の鉄筋棒鋼輸出量は11,330トン(前年同月比▲57%)で内訳は韓国11千トン、中国0.5千トン、他となっている。</p>	<p>12月の外需向け鋼材受注量は前年同月比で51.7%減と、内需同様大幅減が続いている。鋼材需要の急減に対応して海外鉄鋼各社は減産を一段と強化しており、世界鉄鋼協会発表による12月の世界粗鋼生産量は前年同月比で24.3%減の8,441万トン、08暦年計でも前年比1.2%減の13億2,972万トンと10年ぶりの前年割れとなった。</p>
4. 海外市場動向	<p>① 関東地区スクラップは、中国・韓国向けの輸出商談価格が下落しており、沿岸業者は購入価格を引き下げたり、一部では荷止めも実施されている。</p>	<p>12月の粗鋼生産が前年同月比で27.8%減の749万トンに留まる一方、12月末の普通鋼鋼材国内在庫は前月比で5ヵ月連続増となる588万トンに達し、在庫率も154.9%と急上昇している。このような中、経済産業省は1～3月期の粗鋼生産計画集計結果を、前年同期比37.5%減となる1,926万トンと発表した。</p> <p>今後とも、内外経済動向並びに鋼材需給動向にこれまで以上の注意を払うとともに、引き続き鋼材輸出国の動向を注視する必要がある。</p>
5. トピックス	<p>①東京製鐵のスクラップ購入価格(公表値)は岡山工場(陸上)21.0千円/トン、宇都宮工場22.0千円/トン。(2/16現在)</p> <p>②関東鉄源協同組合輸出入札価格(2/12)は、2万トン、@22.7千円/トン</p>	